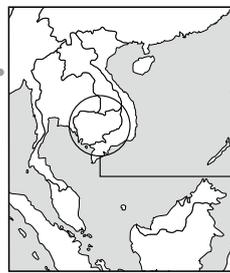


# ユニセフ 子ども物語

## 地球に生きる子どものくらし

Cambodia

### カンボジア



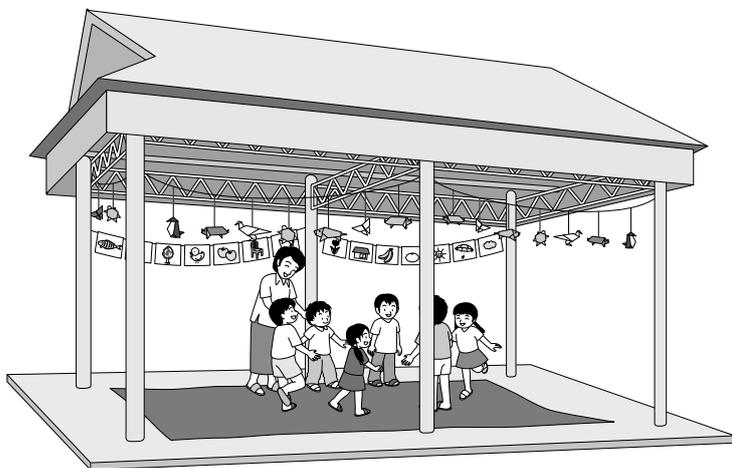
地図は参考のために掲載したもので、  
国境の法的地位について何らかの立場  
を示すものではありません。

## 幼稚園で楽しく小学校の準備!

### ユニセフが支援する村の幼稚園

朝7時。村に元気な子どもたちの声が響きわたります。これから3～5才の子どもたちの幼稚園が始まるのです。今日は23人が出席しています。ニタは5才の女の子。村の幼稚園に通い始めて1年になります。「今日はどんなことをするのか」と毎日わくわくしています。幼稚園が行われている間、お母さんはそばでニタのようすを見守っています。

カンボジアは長く続いた争いがやっと終わり、平和な国づくりに一生懸命取り組んでいる国です。でも村の子どもたちの生活はまだまだきびしく、小学校を途中でやめてしまう子どももいます。勉強が理解できなかつたり、家計を支えるために働かなくてはならなかつたりするからです。ユニセフは子どもたちが小学校で勉強するための準備をする「村の幼稚園」を支援しています。幼稚園の授業は週5日。朝7時から9時の2時間、研修を受けたボランティアの先生が行います。ニタの通う幼稚園はユニセフが支援してつくられました。それはカンボジアの伝統的な建築様式で、風がよく通るつくりになっています。かわいい折り紙がたくさん吊り下げられ、小さな黒板、クメール文字や数字が書かれた学習用教材もあります。



### 小学校が楽しみ!

幼稚園の授業が始まりました。

「これは“コー (い)” という文字ですよ。さあ、みんなで言ってみましょう!」「コー! コー!」

「“コー” のつくものにはどんなものがありますか?」「カワイ (いす)!」

「そうですね。“カワイ” です」「カワイ” はこのように書きます。よく見てくださいね。さあ、みんなで言ってみましょう!」「カワイ! カワイ!」

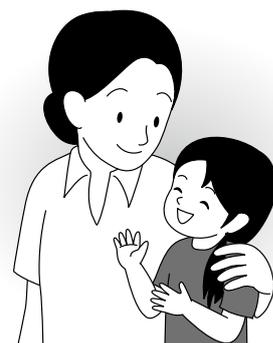
「ここには、いすがいくつありますか?」「プラム (5つ)!」

「それじゃ、いっしょに数えてみましょう」「モイ (1つ)、ピー (2つ)、パイ (3つ)、ポーン (4つ)、プラム (5つ)」

\*カタカナ標記はクメール語。  
括弧は日本語の意味。



授業は楽しく進められるので、ニタたちは夢中になって先生の話聞いています。幼稚園での経験がいかされて、小学校に入学すると勉強が理解しやすくなり、先生の話しを集中して聞けるようになります。ともだちとなかよく過ごして、学校生活に早くなれることもできるのです。ニタは来年、小学校に入学します。「幼稚園はとっても楽しいの。だから小学校はもっともっと楽しいと思うわ!」と笑顔で話していました。



(文・構成：(財)日本ユニセフ協会)

物語の国  
**カンボジア王国**

カンボジアはタイ、ベトナム、ラオスに接するインドシナ半島にある国で、世界遺産の「アンコールワット」でよく知られています。日本の約半分の面積に約1,400万人が住んでいます。9割以上がクメール人で、公用語はクメール語です。



にぎやかなプノンペン市内  
©日本ユニセフ協会

**日本全国の学校と協力して支援するカンボジア指定募金事業「セッコマー」**  
**「貧困に苦しむ農村の子どもたちを守ろう」**

**カンボジアのきびしい歴史**

カンボジアは1884年にフランスの植民地となり、1953年に独立を果たしますが、その後、国内で混乱や内戦、武力紛争が続き、国際社会によるカンボジア和平実現のためのさまざまな取り組みが続けられてきました。1998年に総選挙が実施されてやっと内戦が終結し、復興が始まってから10年が経ちます。しかし、ベトナム戦争のカンボジア国内への拡大(1970~1975)、ポル・ポト政権による極端な共産主義によるカンボジア社会の破壊(1975~1979)、ベトナム軍侵攻による大量難民の発生(1980年代)という過酷な20年は、今もカンボジアの社会と人びとに深い傷を残しています。

**カンボジアの子どもたちのきびしい状況**

(より詳しい統計は『世界子供白書2008』をご覧ください)

項目	カンボジア	日本
5歳未満児死亡率(出生1000人あたり) (2006年) (人)	82	4
改善された水源を利用する人の割合 (2004年) (%)	都市 64 農村 35	都市 100 農村 100
適切な衛生施設を利用する人の割合 (2004年) (%)	都市 53 農村 8	都市 100 農村 100
一人あたりの国民総所得(2006年)(米ドル)	480	38,410

出典：世界子供白書2008(英語版はHPでご紹介しています。)



青空教室で行われる幼稚園の様子  
©日本ユニセフ協会



ユニセフが支援する幼稚園の園舎。  
伝統的な建築様式で風通しがよい。  
©日本ユニセフ協会

**セッコマー(子どもの権利)事業**

ユニセフがカンボジアで支援している事業を「セッコマー」といいます。「セッコマー」とは、クメール語で『子どもの権利』という意味です。貧困に苦しむ農村の子どもたちが健康に育ち、教育を受けて成長するという子どもの基本的な権利を守る活動を中心に据え、農村での生活改善などもめざしています。人びとが事業の意図を理解しやすいように、「セッコマー」事業と呼んでいます。

**「すべての子どもが小学校で学ぶ」をめざす幼稚園事業**

すべての子どもが小学校教育を受けられるように、ユニセフはカンボジア政府と協力して農村の子どもたちの幼稚園を支援しています。幼稚園に通った子どもは小学校での学習や生活に早く慣れ、中途退学が減るという成果につながります。

幼稚園は「青空教室」で行われるところと、ユニセフが支援する園舎(カンボジアの伝統的な建築様式を活かしたつくり)で行われるところがあります。勉強は踊りや歌を入れた楽しいものです。クメール語の文字や数字も学びます。テンポよく内容を変えて楽しく進められていくので子どもたちは夢中になっています。まわりで親たちも楽しそうに見学しています。



夢中になって答えようとする子どもたち。黒板前ではチョークの奪い合いをするほど熱心。

©日本ユニセフ協会

**●保健センター**

村の人びとの病気を予防し、健康を守るため、子どもの発育観察、予防接種、ビタミンA補給、妊産婦ケア、流行している病気に対する注意喚起などの活動が行われています。安全な水や衛生的な施設が整っていない地域のため、下痢をする子どもが多く、ORS(経口補水塩)の使い方の指導も行います。保健センターは無料で利用することができます。



保健員の女性が発育観察ノートに記録をつける

©日本ユニセフ協会

**●水と衛生の改善**

村の人びとが安全な水や衛生の大切さを学び、自分たちで習慣を変え、生活を改善していく取り組みも行われています。村につくられたユニセフ支援の井戸は、村の代表者5人が管理を行い、壊れた時には村の人びとがお金を出し合って修理をしています。衛生についても5人の代表者が中心になって衛生的なトイレづくりの活動を進めています。衛生的なトイレにより、井戸に汚水が入らなくなるため、下痢や腹痛などの病気を防ぐことができます。この成果をもとに、さらにこの活動を進めていきます。



ユニセフ支援の井戸で、気持ちよさそうに水浴びをする子どもたち

©日本ユニセフ協会

**カンボジア指定募金にご協力を!**

貧困に苦しむ農村の子どもたちの幼稚園事業は、日本全国の学校からご協力いただく募金によって大きく支えられています。学習や募金活動資料として「資料キット」の貸し出しをしています。カンボジアの子どもたちの生活やユニセフの活動をわかりやすく紹介していますので、ぜひ活用ください。

利用を希望される際は、学校事業部へお問い合わせください。

☎03-5789-2014

**●指定募金用資料キット**

1. 事業の背景・解説(含むCD-ROM)
2. 掲示用写真資料11枚
3. ビデオ「My World」
4. 布製保健教育用教材
5. 小学生用教科書(2冊)

**カンボジア指定募金の送付方法**

郵便払込口座番号 **00190-5-31000**

加入者名 **財団法人 日本ユニセフ協会**

《《 通信欄に「カンボジア」と記入してください。》》

※窓口でお振込みいただくと、送金手数料は免除になります。

2007年7月に全国から参加された教職員の方がたによるカンボジア・スタディツアーの報告をホームページでご紹介しています。ぜひご覧ください。  
[http://www.unicef.or.jp/children/study\\_tour/child\\_stu\\_ca\\_b.html](http://www.unicef.or.jp/children/study_tour/child_stu_ca_b.html)